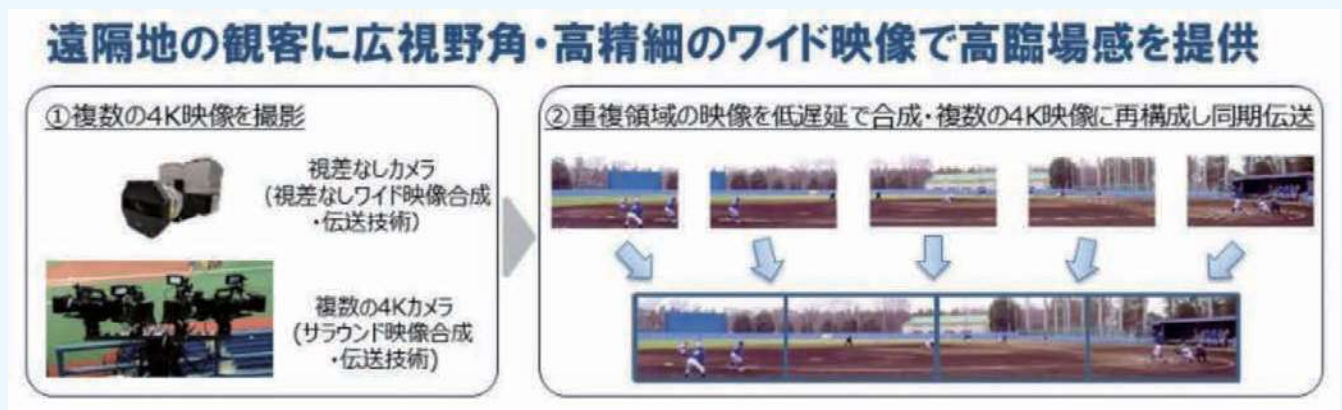


視差なしワイド映像合成・伝送システム

12K等の広視野角・高精細なワイド映像をリアルタイムに生成するための映像合成処理の低遅延化、合成・伝送収容効率の向上を実現する技術です。

本技術では、遠隔地の観客に広視野角・高精細なワイド映像を高臨場感そのままに提供するために、1台のカメラで4K×4枚を視差なく撮影可能な視差なしワイドカメラを採用し、1台のサーバへの機能統合、設置時の調整簡素化、撮影距離の制約撤廃による適用コンテンツの拡大を実現しました。

本技術は、スポーツ競技、音楽ライブ、演劇などのパブリックビューイングに加え、社会的距離を確保した会場（ドライブインシアターなど）で安心安全に観戦・観覧できるサービスやVRシステム等との連携による家庭での視聴などを主な利用シーンとして社会に貢献します。



視差なしワイド映像合成・伝送システムの概要

環境貢献度評価

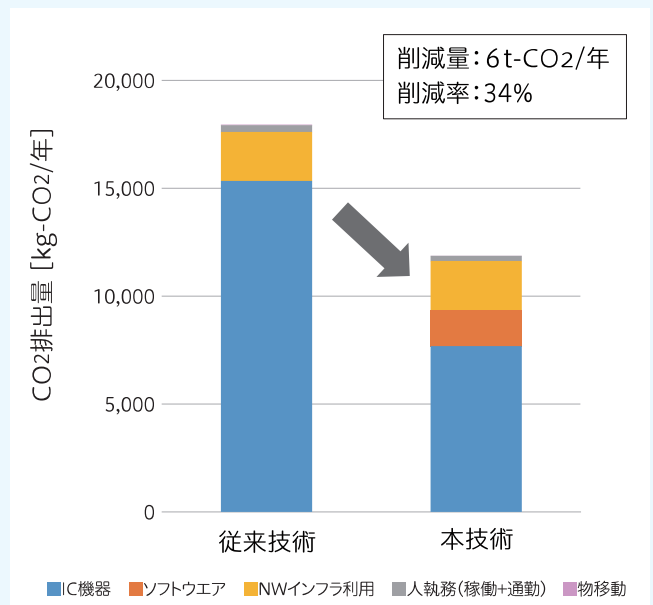
●評価条件

スポーツ競技や野外音楽イベントなどのライブ中継を、複数の広視野角で高精細の映像を用いて、遠隔地のパブリックビューイングに映し出し、ライブ観戦する際に、撮影された映像情報を、従来技術で、中継した場合と、機能性がさらに向上した本技術を用いて中継を行った場合とで排出されるCO₂量を比較することにより、本技術の環境貢献度を定量化しました。

●評価結果

高精細カメラで撮影されたライブ中継映像データ150Mb/s相当を、広視野角・高精細のワイド映像で、1箇所の遠隔会場に伝送する（ライブ配信1回あたり5時間、年間12試合分配信）ことによる環境貢献度は、1年あたり約6t-CO₂（削減率：34%）でした。

主な削減要因は、本技術の利用によって、伝送システムのサーバ台数が削減され、システム設置の稼働が簡素化されて、従来技術に比べて、ICT機器利用に伴う負荷等が削減されたことによるものでした。



評価結果グラフ